

C. 生徒指導研究

川田 基生 倉田 有邦 酒井 為久 田内 公望
 長岡 咲子 羽田野敦子 原 幸宏 丸山 豊
 安井 弘美 山本 岩男 米田 閔一 米山 誠

学校生活に関する中学生・高校生の意識

米山 誠

1. まえがき

61年11月に開かれた本校主催の中等教育研究協議会の主題は、「生活意欲・学習意欲を高めるために——その様々な試み——」というものであった。その主題に応じて、私たちの生徒指導研究グループとしてとりくんだ課題は、いかにして中学・高校の生徒たちを、いきいきと学校行事、学級活動、生徒会活動等に参加させるかということであった。それは、さまざまな形での集団活動を通じて、人間的にゆたかな学校生活を一人一人の生徒に体験させることを目指す指導である。そのことに関連して、私たちは、日常的な学校生活における生徒の実態をできるだけ具体的に理解することの必要性を感じ、特に彼らの意識の実態を調査することにもとりくんだのであった。

生徒指導研究グループは、これまでの約10年間、継続的に「自主性と規律の指導」のテーマを掲げて、生徒指導の実践的研究にかかわってきた。そして、集団生活の中での生徒一人一人の、権利、責任、義務等の自覚と道徳的な判断力を高めることこそが、指導上の基本的な課題であるという認識を強めてきた。^①

生徒たちのおかれている家庭、学校、社会の環境、時代状況の変化、発展に影響されて、生徒たちの意識もさまざまに変化し、彼らの態度や行動の意味、理由がわかりにくくなったと思うことがしばしばある。そのためにも、学校生活に関する生徒の意識をアンケートにより調査することにしたのである。これまでにも、再三、この種の調査を実施してきたので、今回もその延長上のものとして、過去の資料も参考にしながら現在の生徒の実態を探ってみたいと考えた。

名大附属中学・高校の生徒全員を調査の対象としたかったが、時間的余裕がなかったので、中学・高校とも三年生のみ全員を対象とした。中学・高校それぞれ卒業を控えた時点での生徒たちの反省、希望、悩みなどについての簡単なアンケートではあるが、生徒たちが調査の目的を理解して、かなり率直に回答してくれたように思う。61年度の2学期と3学期にアンケートを実施したのであるが、結果の一部は、すでに前記研究協議会の分科会における討議資料として発表した。以下は、その分も含めて、2回のアンケートの結果をまとめたものである。

2. 学校生活に関する生徒の意識

I 第1回アンケート（以下A～F）

- 時期——1986年11月8日
- 対象——名大附中・附高各三年生全員

（欠席者を除く）

中三——男子43名・女子43名 計 86名

高三——男子59名・女子58名 計117名

- 方法——無記名式アンケート（男女別に集計し、結果はすべて%で示す）

A 生活意欲・学習意欲等について

- (1) 毎日の生活において、生きることや学ぶことの意欲を感じますか。 (％)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
とても感じる	21	16	19	12	12	12
かなり感じる	16	21	19	27	40	33
あまり感じない	30	33	31	32	27	30
まったく感じない	7	9	8	15	2	9
わからない	26	21	23	14	19	16

学校生活に関する中学生・高校生の意識

(2) 学校生活は楽しいと思えますか。

(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
ア. とても楽しい	37	32	35	7	14	10
イ. かなり楽しい	32	37	35	34	52	43
ウ. あまり楽しくない	12	14	13	22	19	21
エ. まったく楽しくない	7	5	6	20	3	12
オ. わからない	12	12	11	17	12	14

【ア・イ】の場合、何が一番楽しいか。

(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
①友だちと話したり一緒に何かすること	73	93	83	75	79	77
②学校行事・部活動	10	10	10	8	3	5
③授 業	7	3	5	4	0	2
④先生と話したり一緒に何かをすること	0	3	1.5	0	0	0
その他	3	0	1.5	0	8	5
わからない	13	0	7	13	3	6

(3) 何かうちこんでやれるものをもっていますか。

(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
ア. もっている	75	44	60	73	45	59
イ. もっていない	16	44	30	20	41	31
ウ. わからない	9	12	10	7	14	10

【ア】の場合、それは何か。

(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
①遊び	37	21	31	35	65	45
②音楽	15	54	29	20	18	19
③スポーツ	33	17	27	21	13	19
④勉強	6	0	4	18	4	13
⑤その他	9	8	8	6	0	4

(1) 生活や学習の意欲を「感じる」は全体として中三38%、高三45%。「感じない」は全体として中三39%、高三も39%。参考のため、1984年3月の調査では、中学全学年で、意欲を「感じる」60%、高校全学年で50%。「感じない」は、中学9%、高校18%であった。⁹意欲を感じる者の減少は、後述の、学習内容の理解度学習態度などの影響とか、また低調な生徒会、ホーム

ルーム、部、等の活動状況の反映とかが原因と考えられる。

(2) 学校生活が「楽しい」は全体として中三70%、高三53%。「楽しくない」は中三19%、高三33%。1977年の調査では、「楽しい」が、中学65%、高三37%。「楽しくない」は、中学14%、高校31%であった。⁹また、1978年の中三での調査では、「楽しい」66%、「楽しくない」7%であった。⁹

(3) 何かうちこめるものを「もっている」は、中三60%、高三59%。「もっていない」は、中三30%、高三31%。中、高ともほぼ同率である。男女を比較すると、明らかに「もっている」は男子に多く、女子に少い。生徒全員にそれぞれの個性に応じて、うちこめる目標をもたせることが望ましいと思われる。

B 学習について

(1) 授業について、内容が難しすぎる。内容が多すぎる、進み方が早すぎる、等のことで困ることがありますか。

(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
とても困る	14	12	13	14	7	10
かなり困る	9	16	13	15	10	13
あまり困らない	49	49	49	37	53	45
まったく困らない	14	2	8	20	7	14
わからない	14	21	17	14	23	18

(2) 教室における生徒の授業態度についてどう思いますか。

(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
とてもよい	9	2	6	2	2	2
かなりよい	9	5	7	5	15	10
あまりよくない	63	58	60	37	41	39
まったくよくない	7	16	12	36	9	22
わからない	12	19	15	20	33	27

(3) 学習塾に通っていますか。

(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
通っている	61	44	52	47	40	44
通っていない	39	56	48	53	60	56

(1) 学習の内容や進度に、「困る」は、中三26%、高三23%。「困らない」は、中三57%、高三59%。中・高とも約4分の1の者が学習困難を感じていることになるが、このことは、(2)の授業態度とも関連している。授業態度が「よいと思う」は、中三13%、高三12%に過ぎない。これに対して、「よくないと思う」は、中

三七二％、高三六一％の多数である。(1)の問題が(2)の原因となり、また、(2)の問題が(1)の原因になっていとも考えられ、これは、教師にとって学習指導と生活指導の能力が同時に要求される問題であり、反省や検討が避けられない。(3)で学習塾には、中三、高三ともに約半数が通っていることがわかるが、塾のために、学校での授業や生徒の諸活動がおろそかにされる状況は放置してはならない。

C 悩みについて

(1) 悩んでいることがありますか。

(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
ア. ある	67	61	64	78	83	80
イ. ない	19	23	21	10	12	11
ウ. わからない	14	16	15	12	5	9

〔ア〕の場合、それはどんな悩みか。

(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
①進路	59	50	55	57	50	53
②勉強	45	65	55	39	40	39
③将来への不安	17	38	27	17	29	23
④性格	10	27	18	22	29	26
⑤異性関係	21	12	16	28	23	26
⑥友人関係	24	12	18	20	15	17
⑦家庭	10	23	16	7	17	12
⑧健康	10	8	9	7	8	7
⑨非行問題	14	4	9	7	0	3
⑨性の問題	10	0	5	13	0	6
⑩その他	7	0	4	9	6	7

(2) 悩みがあるときには、主として誰に相談しますか。

(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
①友人・先輩	30	44	37	32	53	43
②母	5	19	12	8	17	13
③兄弟姉妹	2	16	9	2	7	4
④父	2	2	2	7	5	6
⑤先生	5	2	3	0	5	3
その他	7	9	8	41	19	30
わからない	33	19	26	20	10	15
相談できる人がいない	26	7	16	15	3	9

(1) 悩みが「ある」は中三六四％に対して高三八〇％。「ない」は中三二一％に対して高三一〇％。男女の差はあまり目立たない。悩みの理由として「進路」「勉強」が多い。将来への不安、性格、異性、友人等、青年期特有の

悩みも多い。これらの問題に対して適切な相談相手が必要であるが、(2) 相談の相手として、両親、先生をあげている者が少ない。友人関係が圧倒的に多いが、学校生活において友人関係の占める重要性をあらためて感じさせられる。一九七八年度の調査^⑥では、悩みが「ある」は中三六一％。一九八一年度の調査では、「ある」は、中二四〇％、高二六五％であった。^⑦ その理由は、ほとんど成績、勉強、進路、受験等であった。

D 人間関係について

(1) 親友をもっていますか。

(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
ア. もっている	75	84	79	61	83	72
イ. もっていない	9	2	6	15	3	9
ウ. わからない	16	14	15	24	14	19

〔ア〕の場合、何人くらいですか。

(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
1人	0	6	3	8	0	4
2～3人	16	33	25	25	39	33
4～9人	34	36	35	45	52	49
10人以上	50	25	37	22	9	14

(2) 親(保護者)はあなたに対して厳しいと思いますか。

(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
そう思う	28	28	28	22	26	24
そうは思わない	49	35	42	44	45	45
どちらともいえない	23	37	30	34	29	31

(3) 親(保護者)はあなたのことをよくわかっていると思いますか。

(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
そう思う	42	37	39	31	36	34
そうは思わない	23	28	26	38	28	33
どちらともいえない	35	35	35	31	36	33

(4) 家庭で親に対して暴力をふるったことがありますか。

(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
ある	16	14	15	19	17	18
ない	84	81	83	78	83	80
わからない	0	5	2	3	0	2

学校生活に関する中学生・高校生の意識

- (1) 親友を「もっていない」は中三6%、高三9%。男女を比べると「もっていない」は、中・高とも男子の方が多く、それぞれ女子の約4倍にあたる。
- (2) 親が厳しいと「思う」は、中、高とも少く、「思わない」が半数に近い。
- (3) 親が自分のことをよくわかってくれていると「思う」、「思わない」は、中三では「思う」の方が多く、高三ではほぼ同数である。
- (4) 親に対する暴力は、中・高とも意外に多い。また男女の差はほとんどない。親子間の意思疎通の不十分さを端的に示していると思われる。

E 非行問題について

- (1) 本校において、次にあげたようなことをする生徒について、見たり聞いたりしたことがありますか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
ア. 酒を飲む	44	40	42	75	78	76
イ. たばこを吸う	53	56	55	78	81	79
ウ. シンナーを吸う	5	5	5	41	17	29
エ. 学校のを壊したり汚したりする	37	47	42	80	55	68
オ. 盗み, 万引きをする	51	49	50	59	43	51
カ. 人に暴力をふるう	40	28	34	46	22	34
キ. 友だちをいじめたり仲間外れにしたりする	30	26	28	53	52	52
ク. 金品をたかる	23	12	17	39	3	21
ケ. オートバイ, バイク等を乗り回す	37	14	26	76	78	77
コ. 学校をさぼってブラブラする	40	47	43	69	47	58
以上のようなことを見たり聞いたりしたことはない	21	16	19	20	9	15

- (2) 以上にあげられていたようなことをあなた自身も体験したことがありますか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
ア. 酒を飲む	12	5	8	47	17	32
イ. たばこを吸う	12	0	6	29	5	17
ウ. シンナーを吸う	2	0	1	8	2	5
エ. 学校のを壊したり汚したりする	5	5	5	27	2	15
オ. 盗み, 万引きをする	2	0	1	15	0	8
カ. 人に暴力をふるう	2	0	1	19	0	9
キ. 友だちをいじめたり仲間外れにしたりする	2	0	1	15	2	9
ク. 金品をたかる	2	0	1	16	0	7
ケ. オートバイ, バイク等を乗り回す	12	0	6	19	0	9
コ. 学校をさぼってブラブラする	2	0	1	20	0	10

(1)(2)の結果を見て、中・高とも「飲酒」「喫煙」「公共物破損」「万引」「オートバイ」「いじめ」などの多いことがわかる。これらの問題が表面に出て、特別指導処置の対象となる場合は氷山の一角に過ぎず、学校の目の届かない所で、蔓延している可能性がある。学校と家庭とが連絡をとりあい、早期に厳しく適切な指導をすることが肝要である。(1)(2)に現れた数字の傾向は、NHK世論調査部が全国から抽出した中学・高校生3112人を対象とした調査の結果と似ている。⁹⁾

F 清掃・制帽について

- (1) 本年度、毎日の校内清掃の担当が、昨年度までの全員制から当番制に変わったが、その結果、生徒は清掃をしっかりとやって効果をあげていると思いますか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
昨年度よりしっかりとやっている	14	9	12	34	47	40
昨年度よりしっかりとやらなくなった	28	21	24	5	10	8
昨年度とあまり変わらない	33	63	48	39	36	38
わからない	25	7	16	22	7	14

- (2) (中学生)あなたは通学のとき、制帽をかぶっていますか。
(高校生)あなたは中学生のころ、制帽をかぶりましたか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
きちんとかぶっている・かぶった	14			36		
ときどきかぶらない・かぶらなかった	21			17		
かぶらないことが多い・多かった	28			22		
まったくかぶらない・かぶらなかった	37			25		

- (3) あなたは制帽の意義や必要性があると思いますか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
そう思う	5	23	14	31	21	26
そうは思わない	82	54	68	62	63	62
わからない	13	23	18	7	16	12

- (1) 毎日の清掃が生徒の全員性から当番制に変わったために、「しっかりとやっている」は、中三12%、高三40%。「しっかりとやらなくなった」は、中三24%、高三8%。新しい方式が、高校では効果を上げているのに対して、中学では逆になっているようである。当番の

責任を自覚させることが成否の鍵になると言っ
よい。

(2) 中学の制帽については、校則に定められているのだから、登下校時、必ずかぶれ、と指導部を中心に教師側から日常やかましく注意されながらも、制帽をかぶらない生徒は年々増加している。「きちんとかぶっている」は、14%に過ぎない。制帽の意義や必要性があると「思う」も14%である。今や制帽をかぶらせるための正当な意義・理由があるのであろうか。「校則として生徒手帳に掲載されているから」では理由にならない。説得力のない、形骸化した校則は、生徒指導のけじめを失わせ、教師・生徒間の信頼関係を損ねることにもなる。校則の内容を生徒の実態に即して慎重に検討し、教師にも生徒にも納得のゆくものにするのが緊要である。

II 第2回アンケート (以下G~N)

- 時期 中三 1987年2月7日
高 三 1987年1月27日
- 対象 名大附中・附高各3年生全員 (欠席者を除く)
中三 男子40名・女子42名 計 82名
高 三 男子53名・女子61名 計114名

G 受験勉強について

(1) 受験勉強は学んだことをまとめるのによい機会だと思いますか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
そう思う	40	52	46	26	39	33
そうは思わない	35	19	27	53	44	48
わからない	25	29	27	21	17	19

(2) 受験勉強は人間をきたえるのによい機会だと思いますか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
そう思う	20	33	27	41.5	41	41
そうは思わない	60	43	51	41.5	39	40
わからない	20	24	22	17	20	19

(3) 受験勉強は進学のための手段に過ぎず、本当の勉強とはいえないと思いますか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
そう思う	48	45	46	51	49	50
そうは思わない	27	38	33	34	28	31
わからない	25	17	21	15	23	19

(1)(2)(3)を通じて、受験勉強を肯定的にとらえている

者は半分以下である。いわゆる受験戦争が、日常的な学校での教科を及び教科外学習に対する意欲の妨げになっていることを示しているように思われる。

H 自由、自主性について

(1) 本校での学校生活を自由にのびのびと送れたと思いますか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
そう思う	75	69	72	40	52	47
そう思わない	18	10	13	36	5	19
わからない	7	21	15	24	43	34

(2) 自分の生活態度には自主性があると思いますか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
とてもある	17.5	2	10	13	5	9
かなりある	17.5	26	22	30	25	28
あまりない	30	31	30.5	23	33	28
まったくない	10	5	7	13	8	10
わからない	25	36	30.5	21	29	25

自分の生活態度に自主性が「ある」と思う者は、中三32%、高三37%。「ない」は、中三、高三ともに38%である。自主性の指導が、重要な教育目標であることを考えると、自主性の意義を生徒にもっと積極的に認識させ、自覚させるような実践的研究が必要であろう。一方、学校生活を自由にのびのびと送れたと思う者は、中三72%、高三47%である。こうしてみると、「自主性」の伴わない「自由」を、安易な態度で享受している生徒が多いと言えるのではないだろうか。

I 校風、教師の指導等について

(1) 本校には自由尊重の校風が実際にあると思いますか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
そう思う	55	64	60	24	33	29
そうは思わない	25	14	19	55	26	39
わからない	20	22	21	21	41	32

(2) 本校の生徒指導は厳しいと思いますか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
とても厳しい	18	5	11	4	2	3
かなり厳しい	20	5	12	15	3	9
あまり厳しくない	45	55	50	28	44	37
まったく厳しくない	10	19	15	36	33	34
わからない	7	16	12	17	18	17

(3) 本校の教師は、生徒のことをわかってきていると思いますか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
よくわかってくれる	23	5	13	2	2	2
かなりわかってくれる	50	48	49	19	29	24
あまりわかってくれない	7	14	11	38	38	38
まったくわかってくれない	10	14	12	22	5	13
わからない	10	19	15	19	26	23

(1) 自由尊重の校風が実際にあると、「思う」は、中三に多く、高三に少い。「思わない」は、中三に少く、高三に多い。中・高それぞれに「自由」の意味をどのように受けとめているかが問題である。参考のため、56年度の高一・二年生に対する調査の結果をみると、「学校生活に自由を感じる」者は、43%であった。® 当時はむしろ生徒の方から、放任に過ぎないという批判が強出され、教師側としても、徐々に指導の体制や姿勢を改めて今日に至ったのである。

(2) 生徒指導の厳しさについて、「厳しい」と思う者は中三23%、高三12%。「厳しくない」は、中三65%、高三71%である。「自由」の場合と同様に、「厳しさ」の真の意味が、はたして生徒たちに正しく認識されているかどうか問題である。参考のため、過去の調査®の数字を簡単に並べると次のようである。「厳しい」は、56年度、中学15%・高校10%、57年度、中学19%・高校3%、59年度、中学11%・高校5%。「厳しくない」は56年度、中学35%・高校57%、57年度、中学29%・高校67%、59年度、中学40%・高校50%。過去3回分の資料と比較してみると、61年度の場合は、「厳しい」「厳しくない」いずれも、中学・高校ともに最高の数字であり、「厳しい」が増えた一方、「厳しくない」も増えていることがわかる。

J 学級、学年のまとまりについて

(1) 自分たちの学級はまとまりがよかったですか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
とてもよかったです	23	31	27	4	16	11
かなりよかったです	20	17	19	32	33	32
あまりよくなかった	33	21	27	15	25	20
まったくよくなかった	12	26	20	25	10	17
わからない	12	5	9	24	16	20

(2) 自分の学年のまとまりはよかったですか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
とてもよかったです	13	17	15	2	29	17
かなりよかったです	47	52	50	23	48	36
あまりよくなかった	23	17	19	37	8	22
まったくよくなかった	2	7	5	15	5	9
わからない	15	7	11	23	10	16

(1) 学級のまとまりが、「よかったです」と思う者、中三46%、高三43%「よくなかった」、中三47%、高三37%。男女を比べると、「とてもよかったです」と思う者は、中三・高三ともに女子が多い。(2)学年のまとまりが、「よかったです」と思う者は、中三65%、高三53%、「よくなかった」は、中三24%、高三31%。全体としてみると、学級単位よりも学年単位の方がまとまりがよいと思う者が多い。小規模校であることがその理由であろう。

K 中退、転校について

(1) 中途退学したいと思ったことがありますか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
あ る	20	12	16	21	44	33
な い	80	88	84	79	56	67

(2) 転校したいと思ったことがありますか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
あ る	15	17	16	19	30	25
な い	85	83	84	81	70	75

中退、転校を考えたことのある者は、中学・高校とも少いとは言えない。なぜ、中退、転校を考えたのか。その理由としては、「通学がえらい」「朝がはやいのがえらい」「教師のことばがむかついた」、「いじめられた」、「来たくて来た学校ではないので、いやなことがあると、すぐやめなくなる」等(以上中三)。「学校がいやになった」、「授業に疑問を強く感じた」、「学校全体がだらけているので、将来に不安を感じた」、「この学校の性格がいやだった」等(以上高三)。

L 中学又は高校卒業について

(1) 本校で学び本校を卒業することについてどう思いますか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
とてもうれしい	60	52	56	21	29	26
かなりうれしい	25	27	26	32	48	40
あまりうれしくない	2.5	2	2	15	8	11
まったくうれしくない	2.5	5	4	13	5	9
わからない	10	14	12	19	10	4

(2) 中学または高校卒業後の将来に希望や夢を感じますか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
とても感じる	40	43	41	21	31	28
かなり感じる	25	26	26	45	44	45
あまり感じない	15	14	15	11	15	13
まったく感じない	10	5	7	15	7	11
わからない	10	12	11	4	3	3

(3) 中学校または高校卒業後の将来に不安を感じますか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
とても感じる	40	31	35	28	26	27
かなり感じる	30	40	35	34	39	37
あまり感じない	18	22	20	19	30	25
まったく感じない	5	0	3	8	0	3
わからない	7	7	7	11	5	8

(4) 現在の自分の生活を楽しく幸せだと思えますか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
とても思う	38	19	28	6	13	10
かなり思う	33	38	35	38	49	43
あまり思わない	20	22	21	24	7	15
まったく思わない	7	2	5	11	8	10
わからない	2	19	11	21	23	22

(1)本校を卒業することについて、「うれしい」は、中三82%、高三66%。「うれしくない」は、中三6%、高三20%。「うれしくない」の理由は、成績があがらず、進路が希望通りにならないことや、親友が得られなかったことなどがあげられる。(2)卒業後の将来に希望を「感じる」は、「中三」67%、「高三」73%。(3)将来に不安を「感じる」は、中三70%、高三64%。不安の理由は、受験、進路、適性、性格等である。(4)現在の生活を幸福だと「思う」は、中三63%、高三53%、「思わない」は、中三24%、高三25%である。この数字は、A(2)の「学校生活は楽しいと思えますか」の結果と、かなり似ている。

M 日本の現在と将来について

(1) 今の日本をよい社会だと思えますか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
そう思う	28	12	20	8	13	11
そうは思わない	55	48	51	58	49	53
わからない	17	40	29	34	38	36

(2) 日本の将来は明るいと思えますか。(%)

	中 三			高 三		
	男	女	計	男	女	計
そう思う	10	7	9	4	5	4
そうは思わない	55	50	52	66	66	66
わからない	35	43	39	30	29	30

(1)今の日本の社会について、よいと「思う」は、中三20%、高三11%に過ぎない。(2)将来の日本について、明るい「思う」は、さらに少く、中三9%、高三4%である。「よい社会と思わない」、「明るいと思わない」はいずれも過半数である。特に「明るいと思わない」は高三に多く、70%に近い。これらの理由としては、受験、卒業後の進路、将来の仕事に対する不安、国内、国外の政治情勢、戦争への危機感などが考えられる。

N 喜びと悲しみについて

(1) 中学又は高校の生活をふり返って、最もうれしかったことを簡潔に書いてください。

書かれていた事項を内容別に分類し、数の多かった順に列挙すると次のようである。なお、機つかの文章は、そのまま記しておく。

<中三>①演劇コンクール、合唱コンクール、学校祭、修学旅行、林間学校、等の諸行事関係。②級友、先輩、後輩、先生等との人間関係。③生徒会活動、部活動関係。④本校に入学できたこと。⑤その他(昼休みの野球、弁当等)。

○「小学校のときは、転校してきたということもあるけど、あまり友だちがいなくて、性格も暗く、はやく卒業してしまいたかった。この中学校では友だちができて、性格も明るくなってきて、学校生活が楽しく、とてもうれしい」(男)。○「小学校のとき、いじめられていた私が、この附中にきて、たくさんのよい友だちに囲まれて、とても明るくなれたこと。そして積極的になって、みんなから信頼される人になれたこと。明るい友だちや親切な先生方に囲まれて、この3年間をすごすことができたことが一番よかった」(女)。○「人間不信が多少よくなったこと。中学に入った時はなかなか人を信じるができなかったけれど、友だちがよかったためか、少しよくなってうれしかった。最初はこのまま直らなかつたらどうしようかと悩んでいた。人間不信になるとろくなことがない。中一のとき、友だちにうそをつかれたことで、一時は人間不信が前より悪化したけど、弓道部の人たちのおかげで直って来てうれしかった」(女)。○「テニス部で良い先輩にめぐり会い、とてもよい経験をしたり、文化委員をやって文化祭を成功させたりしたこと」(男)。○「3年間を通じてうれしかったことはいろいろありますが、

最も印象に残っていることは、中3の演劇です。はじめのころはまとまりがなくて、どうなることやらと半分あきらめでしたが、一日前のみんなのはりきりは、今までのみんなとはちがっていました。切羽つまったところで真剣になるのが中3Bの特徴で、合唱コンクールのときもそうだったと思います。本番では、みんなの練習成果がものをいい、準優勝という結果でしたが、私としては悔いのない演劇だったと思います。また、これを通して私は、演劇の良さというものが理解できたような気がします」(女)。○「部活でたくさんの友達ができたことです。部活の他にもたくさんの友達ができたことが一番うれしかったことです。ほとんどの人が同じ高校へ行けるけれども、数少ない同じ高校へ行けない子でも中学3年間でできた友達は忘れずに仲良くしていきたいと思います。中学で一番うれしかったことは、これからの一生の中でも一番うれしかったことになるかもしれないと思います」(女)。

<高三>①友人、交友関係。②研究旅行、文化祭。③部活動。

○「全く知らなかった人と知り合えたこと。地元中学に入っても知り合えたとは思うけど、範囲がきまってしまうから、名古屋市であちこちの人が集まり、みんな個性のある人ばかりだから毎日が楽しい。少人数の中で深くつき合えた。これからもつき合いたい」(男)。○「進路先は別としても、ぼくはこの学校にきて非常に良かったと思っている。同級生や後輩の多くに誇りを感じてない子がいるので残念な気がする。もっと活気のある生徒会活動ができるようになったらいいなと思う」(男)。○「研究旅行のとき、委員としてみんなのために役立てたこと」(男)。○「研究旅行で広島へ行ったこと。進路等を考えるのにいろいろな面で自分の原点になったと思う」(男)。○「高3の学校祭の合唱の当日、朝早くからほぼクラスの全員が集まって、一生懸命に練習をして、本番のときには、クラス全体が今までなかったくらいに一つにまとまって唱えたので最高に気分がよかった。優勝というのは、みんなが一生懸命にやった結果にくっついてきたもので、私にとって優勝自体はそれほどうれしいものではなかった」(女)。

(2) 中学校又は高校の生活をふり返って、最も悲しかったことを簡潔に書いて下さい。

<中三>①生徒の無気力、自主性のなさ、クラスのまとまりのなさ、自分勝手な人がいること、等。②友人、交友関係。人にうそをつかれたこと、人のことをやたらせんさくする人がいること、等。③先生に信用してもらえなかったこと、等。

○「文化委員のときに、委員会で決まったことをみんながさわいで聞いてくれなかったり、学校祭の作品コ

ンクールの作品が、全員提出してくれないと困るのに、締切りの日に半分くらいしか出なかったこと」(男)。○「文化祭で高三の演劇の企画がつぶれたとき、高校文化委員会の人たちと話し合ったとき、高校の先輩たちが、高三の企画の穴をうめるため、もう一度自分たちで考えようと言っていたのに、先生はその意見を頭から反対して聞いてくれなかった。この学校の教育方針は自主性ある人間を育てようとしているのに、先生が生徒の自主性をふみにじるような行動をしたのがなげなく、とても悲しかった」(男)。○「合唱コンクールで隣のクラスはあんなにまとまっていたのに、うちのクラスは男子と女子が全然協力してなくて、女子がすごくがんばったのに、悲しかった。HRもまとまりがないし最低でした。だけどその分、女子が団結したことはよかったです、楽しかったです」(女)。○「合唱コンクールや演劇コンクールの時の、みんなのいいかげんな態度にはらがたちました。練習をさぼったり、練習でもまじめにやってくれなかったり、文句ばかり、言ってることと行動していることが矛盾していたと思います。男子の団結力は0%に近いぐらいひどいものでした」(女)。○「3年になって、高校入試のことが深刻になってきて、本当は附属高校へいきたいのに、いけないというのが、とてもつらい。3年間一緒にやってきた人が姿を消してしまうのはとてもかなしく、つらいものです」(女)。

<高三>①クラスのまとまりのなさ、生徒のやる気のなさ、等。②友人関係のいざこざ。③部活がつまらなかったこと。④その他(盗難、自分の性格の変化、学校祭の一般公開がなかったこと等)。

○「3年間のうち、一度もクラスの全員が1つにまとまるということができなかった」(女)。○「お金を盗まれたことはいやだった。本当のことを言っても先生もふくめて認めてもらえなかったこと」(女)。

○「うちの学校は、宿題、課題、補習も少く、私たちの自主性にまかせられていることは頭でわかっているけど、どうすればよいのか、何をしなければいけないのかに気づくことができなければ、とても厳しいものだと思う」(女)。○「この学校は大変すごしやすい学校だと思います。ただ、ぜいたくかもしれないけど、妙なところで自由がないと思います。特に先生たちに言っておきたいんだけど、何かと禁止するなら、ちゃんとその理由を明確にしてほしいんです」(男)。○「一般的には自由な学校といわれているが、実際、自由になっているところは、どうでもいいと思っているところが多く、本当に自由にしてほしいところは全く自由になっていない。学校祭で営火祭も一般公開もなかった」(男)。○「男子の一部で、あまり見たくない“仲間はずれ”があったこと。その仲間はずれにされた子は、

一生、そのことが心に残るだろうと思うと、とても悲しい……。こんなことは、もう二度とあってほしくない」(女)。

(注)

- ① 本校『紀要 第31集, 1986』P.26
- ② 本校『紀要 第26集, 1981』P.34
- ③ 本校『紀要 第23集, 1978』P.39
- ④ 本校『紀要 第24集, 1979』P.18
- ⑤ 本校『紀要 第24集, 1979』P.21
- ⑥ 本校『紀要 第26集, 1981』P.35
- ⑦ NHK世論調査部編『中学生・高校生の意識』P.11
- ⑧ 本校『紀要 第26集, 1981』P.28
- ⑨ 本校『紀要 第27集, 1982』P.21
本校『紀要 第29集, 1984』P.26

3. あとがき

名大附属中学及び高校, 各61年度三年生対象の学校生活に関する意識のアンケート結果は以上のようなものであるが, 全体を通して, あらためて認識を深くさせられたことを次に記して, 本稿のまとめとしたい。

アンケート結果に見られる生徒たちのさまざまな意識の中で, 最も強く私の印象に残ったことは, 彼らの学校生活における友人・交友関係の意義の重大さということである。学校生活の楽しさの第一の理由として, 中学・高校とも80%の生徒によってあげられていたのは交友関係であった。また一方で, 学校生活の悩みの理由や悩みの相談相手として多数の生徒によってあげられていたのも, 交友関係と友人なのであった。中学又は高校在学中, 「最もうれしかったこと」としても,

交友, 友情, クラスの団結, まとまり等が, また「最も悲しかったこと」としても, 友人関係のいざこざやクラスのまとまりのなさ等が, それぞれ最も多く記されていたことに注目せずにはおられない。

生徒たちにとって学校生活の中で最も関心の大きい学校祭・修学旅行等の諸行事や部活動等も, 結局, 交友関係と切り離しては考えられない。集団生活の中で互いに協力し合う中で, 友情が育ち, 学級・学年・生徒会・部, 等の各集団内が友情で結ばれ, よくまとまってこそ, 諸活動の成果があがり, 感動, 充実感を味わうことができるのである。

各生徒にとって親友の有無は, 学校生活のみならず, 卒業後の人生にまでも大きな影響を及ぼす。本校の場合, アンケートで, 親友が一人もいないと答えた者は, 中三6%, 高三9%であった。このような生徒がクラスから疎外されたり, 「いじめ」の対象にされたり, 登校拒否をおこしたりするケースが多いのである。教師は生活指導として, 集団活動を通して生徒全員の交友関係を深めさせ, 学校生活に自信をもたせるように配慮しなくてはならない。特に弱い立場の生徒を励まし, 心の支えとなるような努力が必要となる。校内に暴力やいじめをはびこらせず, 民主的で平和な環境を保証することが学校として当然の義務であることはいうまでもない。

いじめ, 自殺, 高校中退, 等が全国的に問題になっている今日, 私たち教師は, 生徒の内面的な実態を正しく把握しながら, 彼らの交友関係を重視し, 友情を培う教育実践にとりくまねばならないと, あらためて考えさせられる。